

中期為替相場見通し

2006年10月31日

みずほ銀行
市場営業部

【見通しの概要】

ドル/円相場は波を伴いながらも緩やかに高まりつつあり、10月は、それまで上値の重さが感じられた118円台を上抜けた後、120円をうかがう展開となった。ただ、120円を前にした上値の重さや、膨れ上がった円売りポジションへの警戒感から10月末にかけては円高ドル安への調整が進んでいる。為替相場は、世界的不均衡問題に関心が移るとか、米国の金融政策について近い将来における利下げが確実視されるようなことでもなければ、金利差が大きく広がった分、ドルを売り進み円を買い上げていくという動きにはなりにくいのではないかとと思われる。10月終盤のように、相場の調整を経ては、また徐々に高まっていくという展開が繰り返されるのではないかと予想される。もっとも、120円手前では上値の重さが感じられたし、昨年のドル/円の高値(121.40円)は次の厚い壁となるだろう。逆に、円高方向へは10月終盤にもみられたように、円安方向へのスピードに比べると、瞬発力があり警戒を要する。とくにヘッジファンドの決算期を迎える時期にあつて、ポジション調整の深さが注目されることとなる。ただ、市場環境、テーマの変化がなければ限定的で、長く続くわけではないと予想される。

来年は、米国の利下げが現実味を帯びると考えられるため、ドルの調整色が強まることが予想される。米経済が今以上に力強さを失ったときに、日本経済が独自の強さを発揮することができるのかどうか、ユーロ圏やアジア諸国経済はどうかということが問題として残るが、年末に向けて115円割れを意識した展開になると考えられる。また、大きな流れとして、ドルからの分散という動きはあり、ユーロ、そして場合によっては円も支えられる面があると思われる。

【見直し総括表】

	2006年 7～9月(実績)	10～12月	2007年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
ドル/円	113.45～118.29 (118.17)	115～122 (118)	115～125 (120)	115～123 (118)	113～121 (117)	112～120 (116)
ユーロ/ドル	1.2456～1.2940 (1.2674)	1.25～1.31 (1.27)	1.25～1.32 (1.28)	1.25～1.33 (1.30)	1.24～1.32 (1.28)	1.23～1.32 (1.28)
ユーロ/円	145.02～150.73 (149.77)	147～152 (150)	148～156 (154)	147～155 (153)	144～153 (150)	142～152 (148)

(注) 1.実績の欄で、カッコ内は9月28日分。
2.予想の欄のカッコ内は期末の予想レベル。

【為替相場の推移と予想】

